

教育研究水準の向上に資するため、大学の教育、研究、社会貢献及び管理運営の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

教育 ～次代を支え挑戦する人材を育成～

【No.3 英語コミュニケーション科目の充実】

◎ 経済学部国際キャリア（IC）コースでは、英語による専門科目授業の開講、英語による研究指導のほか、学生に国際的な視野を持たせることを目的に、外部講師を招いた国際セミナーを開催し、英語コミュニケーション能力の向上を図った。

【No.34・36 学部等再編構想の推進・学部等経済・経営学部の一体改革検討】

○ 組織改革の基本方針に定められていた経済・経営学部の再編については、平成29年度に検討組織を立ち上げ、具体的な検討を進めた。その結果、社会科学と情報科学との文理融合教育により創造的な人材を育成する文理融合型の社会情報科学部とグローバル社会で活躍できる人材等を育成する国際商経学部を平成31年4月に設置することとし、文部科学省手続きを進めた。

【No.37 環境人間学部特色化の検討】

○ 文理融合を基礎としたより学際的な教育を実現するため、平成30年4月に専門教育の枠組みを6コース1課程から4系1課程へ集約・再編することとした。

研究 ～世界へ発信し地域に貢献する研究を推進～

【No.50 自然環境系（県立人と自然の博物館）による地域づくり活動への支援の充実】

○ 日本古生物学会で、篠山層群産の角竜化石について発表し、その発表内容は新聞やTVでも報道されたほか、自然・環境科学研究所の開設25周年記念フォーラム「日本の恐竜時代を探る」でも紹介した。

【No.62 研究センター設置による特色ある研究の推進】

◎ 「ひょうごメタルベルト」で航空機、医療機器などの次世代産業で必要とされる部品製造にも対応できる硬度・耐熱性・微細加工性に優れた金属粉末や3D造形技術の実現をめざす拠点である『金属新素材研究センター』を、姫路工学キャンパス内に整備することとなった。

社会貢献 ～地域再生の核として社会に貢献～

【No.64 産学公連携活動の推進】

○ 姫路市等と連携して開催した「企業・大学・学生マッチング in HIMEJI」や県立工業技術センターとの「よくわかる出前セミナー」のほか、「関西公立3大学スマートテクノロジー新技術説明会」を開催し、多くの参加者を得るなど、地域のものづくり企業に役立つ基礎技術の解説や研究シーズの発信を行った。

【No.69 研究成果の積極的な公開・発信】

◎ 「イノベーション・ジャパン2017」では出展数（23件）が3年連続全国1位となるなど、本学の研究成果を産業界に向けて積極的に公開・発信した。

【No.76 防災・災害看護等の大学の特色を活かした国際フォーラム・セミナー等の交流事業の充実】

◎ 災害看護グローバルリーダー養成プログラムでは、WHO南東アジア地区の災害担当地区アドバイザーを招聘した「WHOにおける災害危機管理戦略」特別セミナー等を開催するなど、災害看護の特色を活かしつつ、国際的な交流事業の充実に取り組んだ。

管理運営 ～自律的・効率的な管理運営体制の確立～

【No.81・119 権限と責任の明確化・運営組織等の見直し】

○ 理事長・学長分離型のもと、両者の連携を図りつつ、経営と教学の職務と責任を明確にし、それぞれがリーダーシップを発揮するために総合調整会議等新たな意思決定体制を構築したほか、本部事務局内の体制を見直し、理事長を支える事務局組織及び学長を支える事務局組織を設けた。

【No.109 設立団体との連携】

◎ 県と大学法人が、知事、副知事等県幹部と理事長、学長等大学法人幹部を構成員とする総合運営会議を新たに設置し、学部再編等運営上の重要事項に関する協議や意見交換を行ったほか、県の大学担当課と新学部設置に伴う国際学生寮や新教育研究の整備等についての協議や意見交換を随時行った。

小項目評価結果の状況：全体として年度計画を順調に実施している

小項目名	29年度	小項目名	29年度
教育研究等の質の向上		自律的・効率的な管理運営体制の確立	
1 教育に関する措置		1 業務運営の改善及び効率化	
(1) グローバル社会で自立できる高度な人材の育成	b	(1) 法人組織	b
(2) 兵庫の強みを活かした特色ある教育の展開	a	(2) 教員組織	b
(3) 地域のニーズに応える専門家の育成	b	(3) 教育研究組織	b
(4) 質の向上を目指す教育改革の推進	b	(4) 業務執行方法	b
(5) 修学、生活、キャリア形成など学生支援の充実	a	2 財務内容の改善	
2 研究に関する措置		(1) 自主財源の確保	b
(1) 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	a	(2) 経常経費の抑制	b
(2) 地域資源を活用した地域に貢献する研究の推進	a	(3) 資産運用管理	b
(3) 研究拠点の形成・発展のための重点資源配分	a	3 自己点検・評価及び情報の提供	
3 社会貢献に関する措置		(1) 自己点検・評価、監査の実施	b
(1) 産学連携活動の充実と全県展開	a	(2) 戦略的広報の展開と情報開示	b
(2) 地域の核となる大学づくりの推進	a	4 その他業務運営	
(3) 兵庫の特色を活かした国際交流の推進	a	(1) 県との密接な連携	a
		(2) 教育研究機能の整備	b
		(3) 安全・衛生管理	b
		(4) 法人倫理の確保	b
		(5) 組織及び業務全般にわたる検証の実施	b

実績報告書

年度計画の25の小項目ごとに、各取組事業評価結果を基に各事業の重要性を総合的に検証し、下記の4段階による評価を行った。

小項目
(25項目)

区分	達成度	判断の考え方	基準
a	計画を上回って実施	計画を上回って実施されていると判断	◎が有り△と×が無い場合
b	計画を順調に実施	概ね計画どおり実施されていると判断	◎と○が8割以上
c	計画を十分に実施できていない	計画がやや遅れていると判断	◎と○が8割未満
d	計画を大幅に下回っている	計画が大幅に遅れていると判断	△と×のみの場合

取組事業
(175事業)

年度計画に掲げられた175の各事業ごとに、自己評価や計画設定の妥当性を総合的に検証し、計画の実施状況について、下記の4段階による評価を

区分	達成度	判断の考え方
◎	計画を上回って実施	達成時期・内容において計画を上回って実施していると判断
○	計画どおり実施	概ね計画のとおり推進中であると判断
△	計画をやや下回って実施	計画が遅れ気味であると判断
×	大幅に下回っている	計画が大幅に遅れており、取組状況に改善すべきところがあると判断